

平成 2 1 年度

事業報告

平成21年度事業報告

1. 助成事業

(財)トヨタ財団 アジア隣人ネットワークプログラム

「修復技術の伝承による壁画保存力向上プロジェクト 韓国の文化遺産を救う」

平成21年度は、韓国慶尚南道梁山市の通度寺極楽庵寿世殿壁画の保存修復処置と、慶尚南道梁山市の新興寺大光殿外壁及び忠清南道論山市の雙溪寺大雄殿内部壁画の保存修復設計と技術指導を行った。また、平成21年11月にソウルで、^{にかわ}膠を用いた彩色の技法・材料の紹介と保存修復ネットワークの拡大を目的として、^{にかわ}膠ワークショップを開催した。

平成21年度事業額 3,520千円
(プロジェクトリーダー 山内 章 / 彩色資料修復室)

2. 受託調査研究事業

(1) 研究部

文化庁受託事業

平成21年度『発掘された日本列島2009』展

文化庁(記念物課)と開催各館とが主催している「発掘された日本列島」展が、平成20年度から企画競争を前提とする公募形式になり、平成21年度も関係書類を作成、応募した結果、当該事業の請負者となった。

業務内容は、列島展にかかる出陳物の集荷・納品に係る輸送、出陳物の点検・展示・撤収、展示パネル・キャプションの作成、ポスターやチラシの印刷・配布、図録原稿の編集と関連資料の管理、調整のほか、開催各館や資料借用機関との調整など多義にわたったが大きな問題もなく終了した。

平成20年度も行った業務であったため作業手順などに進歩は見られたものの、開催館と当研究所との役割分担や作業期間などの調整、作業する人員配置にも苦慮したほか、展示資料決定が遅れたことや江戸東京博物館での開催日が早まったこともあり、パネル等作成や梱包材料の準備に時間がなかった。詳細な検討をするまでには至っていないが、平成20年度の課題であった支出面では、各開催館の負担金増額もあり平成20年度よりは改善されている。

秋田県から沖縄県までの旧石器～近代の資料がパネル展示や出陳された。なお、開催館、開催期間と入場者数は以下のとおりであるが、平成 20 年度より 1 館増え 5 館となり、江戸東京博物館の開催が 1 ヶ月早くなったことから、入館者数の増加が見込まれたが、残念ながら長年続いていた 10 万人を割る結果になった。

また、年度末には平成 22 年度『発掘された日本列島 2010』展に応募し、採択された。

東京都江戸東京博物館	6月20日(土)～	8月2日(日)	7週間 (入館者数 54,676人)
大阪府立近つ飛鳥博物館	8月13日(木)～	9月23日(水)	7週間 (入館者数 15,426人)
高知県立歴史民俗資料館	10月3日(土)～	11月9日(月)	6週間 (入館者数 4,896人)
栃木県さくら市ミュージアム	11月20日(金)～	12月27日(日)	6週間 (入館者数 3,518人)
愛知県安城市歴史博物館	1月16日(土)～	2月28日(日)	7週間 (入館者数 5,947人) (入館者総数 84,463人)

(2) 保存科学研究室

鳥取県倉吉市 長谷寺 奉納絵馬の顔料分析
奈良県橿原市 奈良県立橿原考古学研究所
薩摩・東中谷遺跡出土 金属製品の分析
香川県善通寺市 旧練兵場遺跡 鉛同位体比分析
三重県伊賀市 浅子谷古墳群他 琥珀の産地同定
東京都港区 東京都公文書館 書庫環境調査

埋蔵文化財の材質分析(三重県・橿原考古学研究所・岡谷市等)に加えて、近年需要が増している建造物等彩色の顔料分析(長谷寺・北斎館・土佐山内家宝物資料館等)を行った。また、毎年数件を実施している文書館・博物館等の環境調査・資料状態調査(奈良県立民俗博物館・東京都公文書館・近つ飛鳥博物館等)を実施した。

(3) 人文科学研究室

奈良県生駒市 宝山寺 文化財調査整理(継続中)
奈良県桜井市 長谷寺 文化財調査整理(継続中)

奈良県高取町	壺阪寺	古文書・版木の調査（継続中）
奈良県	（財）大和文化財保存会	
	奈良県内寺社所有の版木調査（継続中）	
大阪府羽曳野市	野中寺	小誌作成に伴う資料調査（継続中）
大阪府泉南市	文化財総合調査（継続中）	
大阪府堺市	堺市立図書館	古文書等整理事業
香川県	札所寺院の史跡指定に係る白峯寺詳細調査	

継続して行っている長谷寺・宝山寺などの什宝類文化財調査は、平成21年度も引き続いて実施した。

大阪府泉南市の文化財状況調査は5年度目にあたり、奈良県壺阪寺、羽曳野市野中寺の調査は3年度目の調査を行った。

なお、（財）大和文化財保存会事業である奈良県内寺社所有の版木調査は、平成20年度が最終年度の予定であったが、平成21年度も継続して行った。

大阪府堺市の事業は、堺市ふるさと雇用再生基金事業である。

そのほか、香川県の札所寺院の史跡指定に係る白峯寺詳細調査は、四国八十八箇所の第81番札所寺院である白峯寺に所在する仏像・仏画・古文書・聖教・版木・石造文化財・建造物などに関するものである。

（４）考古学研究室

奈良県橿原市	奈良県立橿原考古学研究所	緊急雇用創出事業による出土遺物整理活用事業
奈良県奈良市	埋蔵文化財出土遺物洗浄・マーキング作業	
奈良県橿原市	萩之本遺跡発掘調査	
奈良県橿原市	曲川遺跡発掘調査報告書作成	
和歌山県高野町	高野山大学（松下講堂黎明館）	発掘調査出土遺物整理

橿原考古学研究所と奈良市は、2件ともに緊急雇用創出事業の一環として、遺物整理を実施し、平成21年度事業は報告書を作成し終了した。

橿原市萩之本遺跡発掘調査は、3月11日から調査を開始し、弥生時代前期の水田、縄文時代後期末の包含層、根株などを検出した。同市曲川遺跡の発掘調査は、平成19年度に終了し、平成20年度に発掘調査報告書作成を予定したが、諸般の事情により平成21年度に刊行した。

高野町は高野山大学松下講堂黎明館建設に先立ち、和歌山県教育委員会が実施した調査で出土した遺物の整理を3カ年計画で行い、初年度分の整理を終えた。

(5) 伝世資料修復室

香川県高松市	瀬戸内海歴史民俗資料館	重要有形民俗文化財底曳網漁船の保存処理
大分県佐伯市		重要有形民俗文化財蒲江の漁撈用具の保存処理
新潟県十日町市		所蔵資料の保存処理及び保護措置
大阪府吹田市	国立民族学博物館	資料管理を実践するための基礎的研究
奈良県川上村	玉龍寺	玉龍寺移転に伴う寺宝の修復と移動

大分県佐伯市の重要有形民俗文化財は保存処理を行い終了した。

香川県瀬戸内海歴史民俗博物館所蔵の重要有形民俗文化財である漁船のうち底曳網漁船の保存処理を現地処置により行い、前期においてその前半作業を終了した。1月に後期作業を行った。本事業では、これまで課題となっていた大型伝世資料の脱塩について、積極的に取り組み簡易脱塩を試み、無事作業を終了した。

作業中一時的な効果は確認できたが、今後その本質的効果について検証が必要となる。ただそれには、数年を要する。

新潟地震で被災した十日町市の関口庄屋家所蔵水甕、馬療治関連史料の保存処理および、被災によって閉鎖した柳染加工所のろうけつ染め見本製の保護措置を行った。これについては、合わせて、分析、調査も行っており、保存処理・保護措置を行った資料は、国立民族学博物館で企画展示に出陳される予定である。

国立民族学博物館においては、平成20年度に引き続き、資料管理のための研究を受託し、平成21年度はその最終年度にあたり成果を報告した。

平成22年度からも新たに研究受託を行う予定である。また、常設展示リニューアルに合わせて、展示資料2000点の点検と補修及び簡易クリーニングも行い作業を終了した。

そのほか、ダム建設により移転が必要となった玉龍寺の寺宝を新しい堂塔建築中、倉庫に移動した。寺宝のうち、仏像について継続して修復を行う予定であり現在、薬師如来坐像の修復を行っている。

(6) 記録資料調査修復室

東京都港区	清水建設株式会社	所蔵資料の保存処理および保護措置
愛知県名古屋市	名古屋大学	古文書の修復
静岡県島田市	島田市立博物館	古文書の修復
高知県安芸市	安芸市立歴史民俗資料館	絵図の修復
千葉県佐倉市	国立歴史民俗博物館	所蔵資料の状態調査・水木家資料修復
大阪府富田林市	大阪大谷大学博物館	拓本の軸装丁

和歌山県白浜町 (財)南方熊楠記念館 熊楠自筆資料の修復
新潟県上越市 市立高田図書館 榊原家資料の修復

平成 19 年度より 3 ヶ年計画で保存処理を進めてきた清水建設株式会社所蔵資料は、最終年度の平成 21 年度は設計図面類・記念品などの保存処理を実施した。

これまでに修復した資料は展示貸し出し等で利用されており、最近では設計図面が大阪くらしの今昔館で、大型の額絵が神奈川県立歴史博物館で展示された。

文書・絵図類の修復としては、漉嵌法を中心に、継続して修復を進めている名古屋大学、島田市立博物館、安芸市立歴史民俗資料館、上越市所蔵文書などの修復を実施した。

また、大阪大谷大学博物館、奈良県立橿原考古学研究所附属博物館の拓本展示に際しての軸装丁を行なった。

調査事業としては、平成 18 年度より開始した国立歴史民俗博物館所蔵資料のコンディション調査を引き続き行っており、平成 21～23 年度は金沢地方の民俗資料の状態調査を進行している。

(7) 彩色資料修復室

京都府京都市	宮内庁京都事務所	京都御所杉戸絵の修理工事
鳥取県倉吉市	長谷寺	長谷寺奉納絵馬群の映像記録
兵庫県小野市	浄土寺	重要文化財黒漆蝶形三足卓美術工芸品修理
岡山県岡山市	西大寺観音院	牛玉所殿天井絵の保存修理
兵庫県神戸市	神戸大学	六甲台講堂壁画の保存修復
兵庫県明石市	住吉神社	円山応挙筆「神馬の図」絵馬の保存修理
兵庫県神戸市	敏馬神社	船絵馬の保存修理
長野県飯山市	小菅神社	小菅神社奉納絵馬 「黒神馬・白神馬」の保存修理
長野県小布施町	北斎館	祭屋台天井絵と欄間彩色の保存修理
高知県高知市	山内家宝物資料館	能面の保存修理

京都御所杉戸絵、牛玉所殿天井絵、葛飾北斎筆天井絵を含む祭屋台の装飾彩色、円山応挙筆「神馬図絵馬」などの板絵や建造物彩色を、膠を用いて剥落止め処置した。

近年、彩色の剥落止め処置材料は合成樹脂から膠へと移行してきたが、平成 21 年度は膠を用いることが日本では主流であることを実感した年であった。

また、平成 20 年度から継続の重要文化財黒漆蝶形三足卓の漆膜の剥落止めも膠を用いたように、漆工品の処置も膠を用いることが多くなっている。

文化庁のふるさと文化再興事業に採択され長谷寺の絵馬保存会より受託した倉吉市長谷寺奉納絵馬群の映像記録は、絵馬 38 点を対象として、写真撮影・赤外線撮影・顔料分析・墨書判読・彩色絵具の強化処置やクリーニング等を行った。事業は平成 22 年度も継続し、残り 28 点の映像記録を予定している。

(8) 木器保存研究室

福井県小浜市	福井県立若狭歴史民俗資料館	重要文化財鳥浜貝塚出土遺物の保存処理
兵庫県朝来市	兵庫県立考古博物館	茶すり山古墳出土遺物の保存処理
奈良県橿原市	奈良県立橿原考古学研究所	横田堂垣内遺跡出土木製品の保存処理
島根県松江市	松江藩家老屋敷出土祈禱具、胞衣箱の保存処理	
東京都台東区	寛永寺徳川近世墓所跡出土品の保存処理	
岡山県岡山市	岡山県古代吉備文化財センター	岡山後楽園花交の池出土木樋管の保存処理

平成 17 年度から実施していた重要文化財鳥浜貝塚出土遺物の保存処理は、最終年度にあたり、漆塗櫛の漆膜の貼り戻し作業を行い、併せて前年度までに保存処理した漆製品を保管するための桐箆笥を作製の上、納品した。

奈良県大和郡山市横田堂垣内遺跡出土削り抜き井戸枠は PEG 含浸を終了し、表面処理を行った。

松江市松江藩家老屋敷出土祈禱具（江戸末期）・胞衣箱（明治初期）・寛永寺徳川近世墓所跡出土品（江戸末期）は、木製品以外に繊維、ガラス、金属・植物種子など様々な材質から構成された複合遺物であったため、それぞれの素材の応じた複数の処理法を用いて保存処理を実施した。

平成 19 年度に岡山後楽園にて取り上げ作業を行った木樋管のうち遺存状態の良い 6m 分について、平成 23 年度までの 3 カ年の継続事業として、平成 21 年度は含浸枠を作製の上、PEG30% 水溶液までの含浸を実施した。

(9) 金属器保存研究室

広島県福山市	広島県立歴史博物館	重要文化財草戸千軒町遺跡出土鉄製品の保存処理
兵庫県姫路市		重要文化財宮山古墳出土鉄製品の保存処理
愛知県豊橋市		馬越長火塚古墳出土金属製品の保存処理
兵庫県朝来市	兵庫県立考古博物館	茶すり山古墳出土金属製品の保存処理

北海道厚真町
鹿児島県鹿屋市

厚幌ダム遺跡発掘事業 金属製品保存処理等委託業務
県指定文化財短甲・衝角付冑保存処理事業

重要文化財では、広島県福山市・草戸千軒町遺跡(中世)出土鉄鍋や釣針等と、兵庫県姫路市・宮山古墳(古墳時代中期)出土刀剣類の保存修理を行い、併せて草戸千軒町遺跡では支持台の作製、宮山古墳では保管箱の作製も行った。

また、愛知県豊橋市・馬越長火塚古墳(古墳時代後期)出土馬具等、および鹿児島県鹿屋市所蔵の短甲および衝角付冑(古墳時代中期)などの継続事業については、平成21年度も引続いて調査および保存処理を進めた。

そのほか、平成20・21年度の継続事業である北海道厚真町・厚幌ダム遺跡所在オニキシベ2遺跡(アイヌ墓、中世後半)出土銀象嵌刀子などの調査および保存処理は、事業を無事終了した。

また、兵庫県朝来市所在・茶すり山古墳(古墳時代中期)出土金属製品については、平成21年度に甲冑類の支持台を作製し、これで、平成14年度から8年間に亘って行ってきた茶すり山古墳出土遺物の調査および保存処理を終了した。

(10) 土器修復室

三重県松阪市	重要文化財宝塚1号墳出土家形埴輪等の保存修理
兵庫県姫路市	重要文化財宮山古墳出土玉類の保存修理
長崎県壱岐市	重要文化財双六古墳出土二彩陶器の保存修理
福井県小浜市	福井県立若狭歴史民俗資料館 重要文化財鳥浜貝塚出土彩漆土器片の保存修理

平成19年度から継続して、三重県松阪市の重要文化財宝塚1号墳出土品の保存修理を行った。平成21年度は1点の家形埴輪と、2点の冪形埴輪の修理を実施した。平成19年度に修理を行った船形埴輪とともに、古墳時代中期における埴輪の実態と古墳文化を考えるうえで学術的に重要であり、造形的にも優れた資料である。

その他、京都大学総合博物館所蔵の京都府宇治市庵寺山古墳出土靱形埴輪の保存修理等を行った。

平成21年度受託調査研究事業実績額合計 469,617千円

3. 自主調査研究事業

(1) 対外研究交流の推進

国立民族学博物館集団研修博物館学集中コース運営委員（植田）
国立民族学博物館共同研究員（川本、金山、石井、角南、稲城）
奈良県立民俗博物館運営協議会委員（稲城）
文化遺産保護協力事業委員会委員（狭川）
堺市文化財保護審議会委員（高橋）
阪南市文化財保護審議委員（高橋）
熊野参詣道と石造物調査推進会議 石造物調査指導員（狭川）
大阪市立大学客員研究員（山田（卓））
関西大学博物館なにわ・大阪文化遺産学研究センター共同研究員
（伊藤、川本、尼子）
全国歴史資料保存利用機関連絡協議会近畿部会役員（狭川）
文化財保存修復学会誌編集委員（植田・山内）
日本文化財科学会理事（植田）
東大寺経巻聖教目録刊行調査団調査員（稲城・中川）
戒律文化研究会委員（稲城、佐藤）
日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会奈良県担当委員（佐藤）
奈良女子大学古代学学術センター特任教授（植田）
重要文化財金剛寺金堂等修理専門委員会委員（山内）
財団法人北斎館北斎研究所特任研究員（山内）
韓国 通度寺^{つうどじせいぼう}聖寶博物館客員研究員（山内）
韓国 円光大学校文化財保存修復研究所客員研究員（山内）

博物館実習の受け入れ

5月	奈良大学	5名
8月	追手門学院大学	6名
8月	近畿大学	7名
8月	愛知みずほ大学	1名
8月	京都府立大学	1名
10月	京都女子大学	5名

(2) 秋季特別展の開催

「もの・ワザ・情報 - 古の匠^{いにしえ たくみ}に挑む - 」

平成21年10月25日（日）～11月8日（日） （宗）元興寺と共催

元興寺総合収蔵庫

今回の特別展では、遺跡から出土した遺物と復元模造品とを並べて展示するとともに、復元模造品を製作するためにおこなう、研究者と職人の試行錯誤の過程、

言い換えるならば、古代の金工技術への挑戦の過程も展示した。

主な展示品として、復元模造品のパイオニアとも言える、末永雅雄氏による甲冑類かっちゅうの復元模造品、当研究所で保存処理、復元品の作製を行った、宮山古墳出土品、茶すり山古墳出土品などを展示した。

考古資料とその復元模造品を並べて展示することにより、一般の方にも遺物本来の姿をイメージすることが可能となり、好評を博した。

(入館者数 5,436 人)

関連イベント - 象嵌技法そうがんを体験してみよう -

日時 平成 21 年 11 月 3 日 (火祝) 13:30 ~ 16:00

場所 元興寺文化財研究所 本部 三階会議室 (元興寺境内)

対象 主に小中学生を対象

金工作家中村栄順氏を講師として招き、象嵌技法の歴史についての説明、実演をおこなったのち、参加した方々に象嵌技法を簡易に体験できるアクセサリーの製作体験をしていただいた。参加者は小学生から成人まで 25 名であった。

(3) 調査研究開発および研究成果の発表

定期刊行物

『もの・ワザ・情報 - 古いにしえの匠たくみに挑む - 』特別展図録 (2,000 部)

主な論文等

川本耕三

「文化財の保存科学的処理」 『日本接着学会誌』 日本接着学会 5 月

「出土青銅鏡の分析」

『九州新幹線関係埋蔵文化財調査報告』 福岡県教育委員会 3 月

狭川真一

「大宰府・水城の万葉考古学」

『國文學 解釈と教材の研究』第 54 巻 6 号 學燈社 4 月

「生駒谷の葬地と石造物」 『近畿文化』第 713 号 近畿文化会 4 月

「中世都市奈良の極楽・地獄」 『近畿文化』第 718 号 近畿文化会 9 月

「武門の覇者足利氏の廟所」

『日本中世史に足利氏が残したもの』足利市教育委員会 10 月

佐藤亜聖

「丸亀市中の池遺跡にみる弥生時代前期集落の一様相」

『香川考古』第11号 香川考古刊行会 5月

「中世石造物の普及をささえた技術」『歴博』 155 国立歴史民俗博物館 7月

「輪花形火鉢の諸問題」

『中近世土器の基礎研究』22 日本中世土器研究会 12月

角南聡一郎

「嗜好品文化」

『百年来的凝視』 順益原住民博物館 6月

「水琴窟の考古学と現代社会 - 再発見された近世庭園芸術 - 」

『考古学と地域文化』 一山典還暦記念論集刊行会 6月

「万葉記紀考古学、この十年主要発掘発見30選」

『國文學 解釈と教材の研究』 學燈社 9月

「元興寺と百済の対外交流 - 瓦を題材として - 」

『INTERNATIONAL FORUM ON CULTURAL BREATHING BAEKJE IN EAST ASIA』

韓国伝統文化学院・(財)扶余郡文化財保存センター 10月

「蘇澳鎮公所の八重山民俗資料展示」 『八重山毎日新聞』 12月

「日本人による宋胡録収集 - 宋胡録人形記述分析を中心として - 」

『博物館学芸員課程年報 Musa』24 追手門学院大学博物館研究室 3月

「物質文化に問いかけその学史に学ぶ意味」『民博通信』128

国立民族学博物館 3月

主な研究発表

文化財保存修復学会第31回大会 倉敷市芸文館 6月

雨森久晃 「文化財輸送の基礎的研究() 美術品輸送に関する意識アンケートを中心に」

山内 章 「文化財保存修復に用いる膠の現状と今後の展望

- 韓国の事例を中心として - 」

山田卓司 「エジプト西方砂漠(オアシス)地域における遺跡の環境調査

- ハルガ、アルザヤーン神殿遺跡の温湿度変動 - 」

文化財保存全国協議会40周年記念シンポジウム 同志社大学 6月

佐藤亜聖 「古代から近世の都市遺跡奈良の調査・保存・活用・整備」

全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック研修会 京都アスニー 6月

佐藤亜聖 「秀吉時代の奈良」

日本文化財科学会第26回大会 名古屋大学 7月

- 植田直見 「熱分解-ガスマトリックス/質量分析による出土琥珀^{ゴハク}の産地同定について」
川本耕三 「滋賀県栗東市所在和田古墳群出土金銅装製品の科学分析」
橋本英将 「ポータブル蛍光X線分析計を活用した古墳時代装飾大刀の調査」
山田卓司 「指定品の展示・収蔵状況の実態調査 - 関東以北の地域を中心に - 」

1617 会奈良例会 奈良県商工会館 7月

- 佐藤亜聖 「奈良における中世末から近世初頭の景観」

環太平洋神話研究会・南山大学記念大会「モンゴロイドの宇宙」 南山大学 7月

- 角南聡一郎 「日本における星の伝承と信仰 - 北斗七星と五芒星の造形を中心に - 」

Education of Fine Arts and Study of Material Culture

in Early Modern Japan ICAS6 (International Convention of Asian Scholars 6)

Daejeon Convention Centers 8月

- 角南聡一郎 「日本における星の伝承と信仰 - 北斗七星と五芒星の造形を中心に - 」

中世史サマーセミナー 紀伊見荘 8月

- 佐藤亜聖・池田一城 「高野山中門跡の発掘調査について」

柳田国男研究会例会 名勝大乘院庭園文化館 9月

- 角南聡一郎 「民俗を図説する試み - 本山桂川を例として - 」

東アジア文化遺産保存学会第1回大会 北京故宫博物院 10月

- 橋本英将・塚本敏夫 "Study on Metalwork of KABUTSUCHI-Ornamented Sword
with Handheld XRF Analyzer "

金沢大学日中無形文化遺産プロジェクト・国際シンポジウム

- 「石の匠^{たくみ}-石工技術から探る日中交流-」 石川県文協会館 11月
佐藤亜聖 「日本の石造物にみる中国の影響」

大阪大谷大学公開講座「日中石造物の現状」大阪大谷大学 12月

- 佐藤亜聖 「寧波^{にんぽ}周辺の石造物」

日本史研究会 12月例会 キャンパスプラザ京都 12月

- 佐藤亜聖 「考古学から見た中世都市奈良」

主な講演・研修会等

植田直見

「文化財保存と分析化学」 分析科学会高野山シンポジウム 5月

金山正子

「資料保存概論 - 「本の修理」を資料保存の観点から捉える - 」

奈良県図書修理マイスター養成講座 奈良県図書情報館 6月

「紙資料の修復技術(講義)・安全な応急処置的修復(実習)」

福井県文書館主催研修会 福井県立文書館 6月

「紙の劣化と保存環境」 公文書保存管理講習会 国立公文書館 7月

「古文書(紙資料)の取り扱い」 桃山学院大学博物館実習(夏期集中)

桃山学院大学 9月

「修復技術論」 国文学研究資料館平成21年度アーカイブズ・カレッジ

国文学研究資料館・佐賀大学 9月・11月

川本耕三

「^{ちゅうぞう}鑄造品の自然科学的調査」 鑄造遺跡研究会 9月

坂本亮太

「鎌倉時代の農村景観と『日根野村絵図』」 泉佐野歴史セミナー

歴史館いずみさの 6月

狭川真一

「生駒谷を歩く・生駒谷の葬地と石造物」 近畿文化会臨地講座 4月

「石塔の歴史と鑑賞法」 近畿文化サロン歴史文化セミナー

and 新文化サロン 5月

「神の塔・仏の塔」 大和文化会 銀座プロッサム 6月

「元興寺・奈良まちと地藏信仰」

南都再発見～春日今昔講座 春日公民館 8月

「元興寺とならまち」 奈良市教職員研修「世界遺産を学ぶ(9)」

ならまちセンター 8月

「奈良町の極楽・地獄」 近畿文化会臨地講座 9月

「発掘調査の民間委託と行政の責務」 日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員

2009年度埋蔵文化財保護対策委員会夏期研修会 10月

「武門の覇者足利氏の廟所」 史跡樺崎寺シンポジウム 10月

「中世の葬送墓制・^{くるすやまのみ}栗栖山南中世墓群と日本の中世墓」

茨木市立文化財資料館郷土史教室 10月

「墓と葬送の中世・横尾墳墓群と日本の中世墓」 松阪市文化財センター

特別展「中・近世のおくり人」講演会 11月

「新発見の平城京十条地区を考える」 帝塚山大学市民講座 12月

佐藤亜聖

「中世の奈良」 奈良ボランティアガイドの会研修会 奈良中央公民館 5月

「石造物研究の最前線」 千早赤坂村歴史講座 くすのきホール 12月

山内 章

「彩色文化財の保存修復と修復材料としての膠^{にかわ}について」

四天王寺仏教文化講座 5月

「彩色文化財の保存修復と修復材料としての膠^{にかわ}について」

社寺建造物美術協議会研修会 6月

「膠による彩色文化財の剥落^{はくらく}止め処置」 日本人形玩具学会総大会 6月

「膠ワークショップ 膠を用いた彩色の材料と技法」 韓国ソウル 11月

(4) 民俗資料の収集

(5) 元興寺文化財研究所民俗文化財保存会研究助成

佐藤亜聖

「壬生寺^{みぶでら}の考古学的研究」 200千円

壬生狂言で知られる壬生寺は、京都屈指の古刹である。平成2年度より2カ
年にわたり、当研究所ではこの壬生寺の発掘調査を行い、最古級の蘇民将来札^{そみんしょうらいふだ}
を発見するなど大きな成果をあげた。

本研究ではこれまでの歴史考古学研究の成果をふまえて、出土資料の再選
別・実測・採拓等を行い、あわせて出土遺物に関する考察を通して庶民信仰の
展開を考察した。

角南聡一郎

「辻村泰圓コレクションの基礎的研究」 50千円

元興寺には、故辻村泰圓師によって収集された仏教民俗・考古・民具資料が
所蔵されている。これらは、辻村師自身の仏教民俗に対する理解や、アジアと
の仏教を通じた交流の足跡を示す貴重な資料である。

平成22年(2010年)の平城遷都1300年祭に向けて、元興寺特別収蔵庫の1
コーナーを利用して、「辻村泰圓師の足跡を偲ぶ」ことをテーマとした企画展
(会期平成22年5月1日~31日「元興寺コレクション - 泰圓・泰善二代の軌跡
- 」として)を実施し、これらコレクションの一部を展示公開することで、資
料を通じてお人柄や足跡を偲ぶことを最終目的とした。

そこで、これら資料のデータベース化作業と資料の意義付けを実施した。

手順としては、資料のナンバリング 調書作成 デジタルカメラによる写真
撮影 一覧表の作成である。これらをもとに資料の目録化を行った。

橋本英将

「復元品製作実験による「鈴鏡」製作技法の解明」 250 千円

本研究は、古墳時代中期以降東日本を中心に分布する「鈴鏡」について、復元品製作実験を通して製作技法を解明することを目的とする。

京都大学総合博物館所蔵の志段味大塚古墳出土五鈴鏡を復元の対象とし、X線写真撮影、三次元計測等の結果をもとに、復元計画を立案した。鑄金作家小泉武寛氏のご協力のもと、鑄造実験を実施した。鈴部への湯道を変えた複数のパターンの実験を行い、貴重な学術データを得ることができた。

また、本研究成果の一部は、平成 21 年度秋季特別展の展示にも生かすことができた。

平成 21 年度自主調査研究事業実績額合計 8,200 千円

4 . 坪井研究奨励金

平成 22 年 3 月 31 日現在残高 431,622 円

* 参考 前回贈呈実施日 平成 7 年 3 月 18 日

5 . その他

三菱財団 人文科学研究助成

「中世武士の墓所に関する考古学的研究」

この研究費では、遺跡の発掘調査成果だけでは得られにくい、墳墓堂や石塔を中心とした武士の一族墓について研究を深め、中世の墓所の実態を明らかにしようとするものである。その手掛かりとして平成 21 年度は足利市樺崎寺跡旧在の足利氏五輪塔群と滋賀県徳源院所在の京極氏宝篋印塔群の予備調査を実施した。

とくに樺崎寺跡の塔群は五輪塔群成立以前の様相が発掘調査で明確になっていることと、平安時代から鎌倉時代へ移行する激動の時代を乗り越えた武士一族の墳墓であることなど、歴史的意義の大きい遺跡であることが明らかとなった。

今後、石塔の詳細な調査を行い、遺跡の変遷の中で捉えることで武士の墓の様相が明らかになると考える。

平成 21・22 年度事業額 1,700 千円
(研究代表者 狭川真一 / 研究部・情報管理室)

見学の受け入れ

6月	関西大学	25名
6月	韓国	2名
6月	京都大学	11名
8月	東京文化財研究所	3名
9月	東北芸術工科大学	8名
9月	サイバー大学	15名
9月	皇學館大學	20名
10月	国立民族学博物館（国際協力機構（JICA））	15名
10月	香芝市小中学校教頭会	14名
11月	別府大学大学院	7名
12月	台湾行政院文化建設委員会	3名
12月	宝塚造形大学	6名
1月	ユネスコアジア文化遺産国際会議	20名
2月	韓国国立慶州文化財研究所	3名
2月	東京文化財研究所	4名
2月	国立民族学博物館（国際協力機構（JICA））	12名
2月	京都嵯峨芸術大学	3名
2月	宮内庁主計課	5名
3月	滋賀県立八幡高校	4名
3月	金沢学院大学	5名
3月	大手前大学・韓国	3名

非常勤講師

大阪大谷大学	日本民俗学（通年）
大谷大学	文化財概論（前期）文化財修復論（後期）
奈良大学	博物館学（通年）保存科学実習（前期）
京都造形芸術大学	歴史遺産学 11a（スクリーニング）
関西大学	博物館実習（通年）、考古学実習（後期）
近畿大学	博物館学実習（前期）
立命館大学	情報考古学（前期）文化財科学（前期） 学芸員のためのデジタル技術（後期）
大手前大学	文化財科学 2000（集中）
桃山学院大学	博物館学実習（集中）
京都嵯峨芸術大学大学院	保存修復演習（建造物）（集中）
追手門学院大学	博物館学（前期）博物館実習（集中）

科学研究費補助金関係

平成 21 年度科学研究費は、継続分 7 件、新規分 4 件の研究課題が採択された。

直接経費 18,200 千円と間接経費 5,100 千円の総額 23,300 千円の経費配分を受け、また、他機関より 5 件の研究分担金、直接経費 1,000 千円と間接経費 300 千円の総額 1,300 千円の経費配分を受けて、全総額 24,600 千円の研究を実施した。

以下に、研究種目毎に区分し、課題名、研究期間、研究代表者、平成 21 年度交付金額の概要を順に記す。

基盤研究(A)海外

「日韓における保存処理後木製品の経年変化と保管管理の比較研究」

平成 21～25 年度 伊藤健司 4,500 千円

基盤研究(B)一般

「文化財輸送の基礎的研究～輸送時に与えるストレスの解析と防振輸送台の開発～」

平成 19～21 年度 雨森久晃 1,500 千円

「文化財保存修復に用いる膠の生産に関する研究～牛皮膠ぎゅうひにかわと魚膠さかなにかわを対象として～」

平成 20～22 年度 山内 章 3,300 千円

「日本中世の葬送墓制に関する発展的研究」

平成 21～25 年度 狭川真一 2,000 千円

基盤研究(C)一般

「指定品の展示・収蔵状況の実態調査～考古資料を中心として～」

平成 19～22 年度 岡本広義 700 千円

「木製横櫛の用材選択と製作技術に関する基礎調査」

平成 20～22 年度 木沢直子 900 千円

「中近世庶民信仰絵画の自然科学的・実証的研究」

平成 20～22 年度 高橋平明 1,100 千円

「民俗資料の塩分劣化とその対処法の研究

～博物館実践型保存処理法の確立を目指して～」

平成 21～23 年度 石井里佳 1,500 千円

挑戦的萌芽研究

「ゲル状態変化を用いた含水保存処理法の新規開発」

平成 21～22 年度 山田卓司 1,200 千円

若手研究(A)

「ポータブル蛍光エックス線分析計を活用した装飾大刀の網羅的調査研究」

平成 19～21 年度 橋本英将 700 千円

若手研究(B)

「氏寺を中心とした中世地域社会構造の研究」

平成 20～22 年度 坂本亮太 800 千円

研究分担金受入

基盤研究(A)

「考古遺跡調査への情報技術導入実験～エジプト・アルザヤーン神殿遺跡～」

平成 21 年度 塚本敏夫 400 千円

研究代表者：東京工業大学大学院情報理工学研究科亀井宏行教授

基盤研究(B)

「エジプト西方砂漠のオアシス地域における文化受容の研究～アムン神信仰の受容と伝播～」

平成 21 年度 橋本英将 300 千円

研究代表者：駒沢大学文学部大城道則准教授

基盤研究(B)

「飛鳥・川原寺裏山遺跡の総合的研究～出土品から見た川原寺の特質～」

平成 21 年度 尼子奈美枝 100 千円

研究代表者：関西大学文学部米田文孝教授

基盤研究(C)

「御影石^{みかげいし}製中世石造物の分布調査とその学際的研究～中四国・九州を中心に～」

平成 21 年度 佐藤亜聖 120 千円

研究代表者：高知大学教育研究部人文社会科学系市村高男教授

基盤研究(C)

「20 世紀前半に日本人が収集した中国民具についての文化人類学研究」

平成 21 年度 角南聡一郎 80 千円

研究代表者：奈良大学社会学部芹澤知広准教授